

米国アリゾナ 有名天文台で採用！

株式会社ミトリカは、
理化学分析用の各種精密ガラス製品及び特殊な光源(ランプ)の専門メーカーとして、
今年で**創立 52 年**を迎える会社です。

ミトリカの特殊ランプは各種、理化学分析装置で使用されますが、
その中でも弊社の **ヘリウムランプ**はその独自のスペクトルにより、
主に屈折率等の測定に使われます。

今回、その**ヘリウムランプ**と**専用電源**が

Binospec (高精度天文学分光写真撮影)の補正用光源として一役買うことになり、
2017 年に出荷されました
当ランプは補正用光源として期待通りの輝きを放っていると報告を受けております。

Binospec は完成後、

世界トップレベルの**米国アリゾナ州の「MMT 天文台」**に設置される予定です。

MMT 天文台は 2011 年に、寿命迎え近いうちに融合し、新しい星として誕生する可能性のある
2つの星を発見。

他にも、近いうちに超新星爆発を起こす可能性の 10 個の星を発見している天文台です。

世界に数あるランプメーカーの中から、
茨城県水戸市で製造されたヘリウムランプが電源とともに
世界トップレベルの MMT の天文学写真撮影に採用され、
国際的に貢献できることに喜びを感じております

弊社の社訓である”お客様の輝く明日への架け橋となる”との言葉通り、
弊社は星座の輝きを正確にとらえ、天の川への架け橋作りに役立ちたいと考えております。

これからもミトリカをよろしくお願いいたします



茨城新聞に掲載されました！

2017年(平成29年)4月6日 木曜日

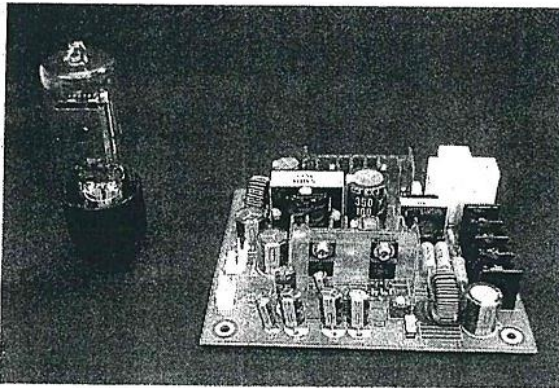
茨 城 新 聞

ミトリカのヘリウムランプ

分析用ガラス製品や特殊ランプ製造販売のミトリカ(水戸市千波町、平沼博社長)のヘリウムランプが、米国アリゾナ州の天文台に採用された。ヘリウムガスを充填したランプで、主に光の屈折率を測定する装置に利用される。ヘリウムランプが天体撮影に応用されるのは珍しいという。

採用したのは、アリゾナ大学とスミソニアン協会が共同管理するフレッド・ローレンス・ウィップル天文台。六角形の鏡を複数組み合わせた複合主鏡式望遠鏡(MMT)を使い、消滅寸前の星の動きを捉えるなど世界トップクラスの

米の天文台に採用



実績がある。同天文台の依頼を受け、同社が2月、ヘリウムランプ5本、光強度調整対応の専用電源3基を納入した。天体写真の撮影には、望遠鏡が

米MMT天文台に採用されたミトリカのヘリウムランプ(左)と可変型電源装置

捉えた遠方宇宙の天体が放つ光の波長、強度を測定するため、分光器と呼ばれる装置が使用される。同社のヘリウムランプは、同天文台が製作中の高性能分光器に搭載される。同社によると、ヘリウムランプを使って分光器の波長を補正し、正常に機能しているかどうか確認する役割が期待されているという。

平沼社長は「世界トップクラスの天文台から声が掛かったのは光栄。今後、学術研究にも積極的に利用してほしい」と話した。

(大平賢二)